

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	環境園芸学科			
科目名称	花卉園芸各論						授業形態				
科目コード	710029	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング			
担当教員名	長江 嗣朗								ICT活 用		
授業概要	<p>花卉園芸は生産園芸、趣味園芸および社会園芸等に大別できる。本講義では、生産園芸を主として取り上げて講義する。すなわち、主要な鉢物および切り花を取り上げ、現在実際に行われている栽培技術を紹介する。この授業の目的は、主要な花卉の栽培に役立つような知識と能力を身に付けることを目指している。</p>										
関連する科目	2年前期「花卉園芸各総論」、「園芸生産環境実験実習Ⅰ」、2年後期「園芸生産環境実験実習Ⅱ」										
授業の進め方 と方法	<p>板書、パワーポイントを主として用いる。また、随時プリントを配布し、理解度を高める。さらに、必要に応じて実物を持参して理解度をさらに高める。</p>										
授業計画 【第1回】	<p>日本の花卉の生産と流通 現在、日本で栽培されている花卉について、また日本で流通している花卉について学修する。</p>										
授業計画 【第2回】	<p>バラの歴史 バラ属は世界で最も愛されている花卉といえる。そのバラが世界中の人々に関わってきた歴史を学修する。</p>										
授業計画 【第3回】	<p>世界のバラ属 北半球におけるバラ属の野生種を紹介し、またそれらから誕生した園芸品種についても学修する。</p>										
授業計画 【第4回】	<p>オールドローズとモダンローズ 現在世界で流通しているバラ属は、オールドローズとモダンローズに大別できる。それぞれの特徴とモダンローズの誕生について学修する。</p>										
授業計画 【第5回】	<p>切り花生産 1 バラを対象に、バラの生理を踏まえて、切り花の生産方法について学修する。</p>										
授業計画 【第6回】	<p>切り花生産 2 カーネーションおよびキクを対象に、バラおよびキクの生理を踏まえて、切り花生産方法について学修する。</p>										
授業計画 【第7回】	<p>ユリ属について 現在世界で主として観賞されているユリ属を紹介する。また、それらのユリを分類し、それぞれの特徴について学修する。</p>										
授業計画 【第8回】	<p>ユリの生理と生態 ユリ属の生理と生態について学修する。</p>										
授業計画 【第9回】	<p>ユリの人為的開花コントロール ユリの花が周年流通している理由とその栽培方法について、ユリの生理を踏まえて学修する。</p>										
授業計画 【第10回】	<p>ツツジ属の栽培 ツツジ属の生理とその栽培方法について学修する。</p>										

授業計画【第11回】	ツツジ属 世界でも人気のあるツツジ属は、日本が原産のものも多い。それらの属、種について、その特徴を学修する。
授業計画【第12回】	切り花生産3 ストックは花卉の中でも切り花生産が難しい。その生産方法について具体的に学修する。
授業計画【第13回】	アジサイ属 アジサイ属の種類とその栽培方法について学修する。
授業計画【第14回】	切り花の鮮度保持について アジサイ属の種類を紹介し、その生理と栽培方法について学修する。
授業計画【第15回】	まとめ これまでの14回の学習内容について復習する。
授業の到達目標	まず、花卉が人類にもたらす影響を考察し、その必要性を理解することを目的とする。【専門分野の知識・理解の獲得】 次に、国内における花卉産業は、近年海外からの輸入物の影響を受けていることを理解する。そこで、外国産の花卉との差別化ができるような国内での花卉生産について実際の現場で利用できるようになることを目的とする。【生涯学習力の育成】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	当日の授業に関連する分野・植物について、下記の参考書を読んである程度理解しておく。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	授業中に紹介した花卉について、その生理・生態を調べて、知識の定着およびさらに知識を深めるように努める。(1時間程度)
課題に対するフィードバック	各試験、レポートは評価後、次回以降の授業で解説を行う。
評価方法・基準	期末に行う筆記試験によって、評価する(80点)。また、授業中に評価する小テストについても評価に加える(20点)。
テキスト	特になし。必要に応じて、適宜プリントを配布する。
参考書	「花卉園芸総論」、「花卉の開花生理」、「花卉園芸学」、「花卉園芸」、「観賞園芸学」、「花卉の栄養生理と施肥」
備考	特になし